

新連載!!

病院のお仕事いろいろ

その1 患者さんに寄り添い安全を守る

手術看護認定看護師

山田和代(やまだかずよ)看護師長

テレビや映画での手術場面といえば、執刀医が「メス!」「コッヘル(鉗子)」などと指示を出し、傍らの看護師がてきぱきと応えるといった風景を想像されるかと思いますが、手術室看護師の役割はそうした「器械出し」といわれる役目だけではありません。

「患者さんの安全を守り、手術がスムーズに行われるよう必要なケアするのが手術看護で、医師は手術に集中していますから全体が把握できる『外回り』も重要です。」(山田看護師長)

通常の看護知識、経験はもちろん大切ですが、手術室では解剖学や生理学も学び現場体験を重ねることで手術の流れが分かり、先読みが出来るようになります。

「患者さんは麻酔をかけられ意識のない状態ですから、徹底して安全を守るのが私たちの役目です。」と、山田看護師長は穏やかですが力強く語ります。合併症や感染症の予防、誤認防止といった手術中の配慮はもちろんのこと、術前の説明から術後のフォローまで患者さんに寄り添って不安を取り除き、心身ともにサポートしていくなど手術室看護師の役目は幅広いです。

「手術という非日常的な状況にある患者さんの痛みや不安を少なくし、少しでも早く手術が終わるのを待っているご家族の元に戻れるようにすることを目指します。」(山田看護師長)



もう一つ心がけているのが、「患者さんを病名で呼ばないことと、流れて作業をしないこと」で、あくまでも一人ひとりの患者さんを大切にしている姿勢を貫いています。以前に大けがをして自らが手術台に乗ったことがある山田看護師長は、痛みのなかで「手術される患者さんの側に立つことの大切さをあらためて強く感じました。」と語っていました。

その2 医療機器を取り扱う黒衣(くろこ)のプライド

臨床工学技士

藤井有美子(ふじいゆみこ)さん

医療、治療の分野では、様々な分野で最新の電子機器が使用されます。呼吸、循環機能などを代替、補助する生命維持管理装置をはじめとした医療機器の操作や点検管理をする専門職が臨床工学技士です。臨床工学士の藤井有美子さんがこの方面に進んだのは、

「子どもの頃からテレビやオーディオ等、電気製品の配線をするのが好きでした。そういうことが得意で興味がある女子もいるんですよ。」(藤井さん)

この仕事を選んだ理由は二つで、「好きなことを職業にしたい」ということと、「きちんとした資格・国家試験のあるもの」ということ。

その夢を叶えて10年、手術室や治療現場で各種最先端の機器を取り扱う専門家として、スタッフから頼りにされる存在に成長しているところですよ。

「患者さんと顔を直接あわせるのは透析ぐらいですが、医療の現場で医師や看護師さんに頼りにされるやりがいがあります。現場を支えるプロ意識で取り組んでいます。」(藤井さん)

歌舞伎でいうと役者を支える黒衣のような存在で、表には出ませんが舞台に欠かせない存在です。



「この方面は電子機器も多く、モデルチェンジや新機種開発のスピードがものすごく早い。手術室や治療部門によって取り扱う装置や機器が異なるので、それぞれに精通したうえで全般的なことを覚えておかないといけません。まだまだ勉強が欠かせません。」とのことでした。